

障害者生活支援シンポジウム ～共生を目指す地域づくり～

社会福祉法人 明光会

〒421-1211 静岡県静岡市葵区慈悲尾 180 番地

助成事業の概要

令和 6 年 11 月に当会「レキシア鷹匠」を会場に行う。テーマを「共生を目指す地域づくり」とし障害者と高齢者、子ども、住民とが地域で生活していくためにどうすればいいのかを参加者とともに考える機会としたい。地域で支援をしていく主体としてはいろいろなものが考えられるが、社会福祉法人、NPO 法人、障害者当事者団体が主なものであろう。

地域（静岡市）で様々な活動をしているこれらの団体の中から社会福祉法人天心会、丸子まちづくり協議会、静岡市静岡手をつなぐ育成会の 3 団体にそれぞれの活動の紹介をお願いし、その 3 団体と地域共生の計画を推進する立場での静岡市（障害福祉企画課）、主催者である社会福祉法人明光会を加えた 5 名でのディスカッションを行う。ここではそれぞれが考える地域共生とはどんなことか、現在どの程度進んでいるのかから議論を始めこれからどんなことができるのか、社会福祉法人としてできることは何かにまで言及したい。また明日からのワンアクションとして参加者の意気込みを聞く。これらのもととなる地域共生の考えを当会会長が基調講演のなかで明らかにしていく。

事業の成果

当日は 3 部構成で行い、約 30 名の参加者が集まった。第 1 部の基調講演は当会会長が担当し地域共生についての当会の考えや取り組みについて紹

介した。市中心部にも拠点を開設するという積極的な事業展開、中心住宅地にグループホームを新設する際にあった地域住民との考え方の違いなどの話は障害者との共生についての現実を感じさせる内容であり、経営者であり支援者でもあるという会長の立場ならではの話でありなかなか普段聞くことができないものであったので参加者にとってはおおいに参考になったのではないかと。

第 2 部では静岡市内で地域共生の観点からいろいろな活動を展開している 3 つの団体が普段行っている活動を紹介した。この 3 つの団体は支援対象に違いがあり同じ支援者といっても普段の行き来はあまりない。どんな活動をしているかもお互いよく知らなかったが今回話を聞いてあらためて協働して行えることも多くあることに気が付いた。丸子まちづくり協議会は、市内でも先進的な取り組みを行っている自治会発祥の団体だがその理事長でも地域にいる知的障害や精神障害のある人とのつながりはなく「よく知らない」ということだった。

目に見えない障害（のある人）は文字通り地域の人にも知られていないことが浮き彫りになり今後どう支援していくかという課題としても明らかになったと思う。今まで支援をしてきた側の課題でもあると感じた参加者は多かったのではないかと。第 3 部での成果としては静岡市静岡手をつなぐ育成会が行っているおでんジャーの活動を普段では関係がなかった人たちに見てもらったことと本人（知的障害のある人たち）からの心からの訴え、叫びを第 56 回東海北陸大会岐

卓大会本人部会決議文という形で聞くことができたことである。

地域生活において何を不安に思っているのか、どのような支援を求めているのか強く働きかけられたと思えたことである。

■ 成果の広報・公表

シンポジウムの成果の広報や公表については事前に静岡新聞社ほか地元の報道機関に取材の依頼を行っていたので令和6年11月26日付け静岡新聞朝刊中部版で静岡県中部地区に報道された。主催者である当会では法人のホームページにてシンポジウムの内容を紹介しより多くの市民の皆さんに取り組みを知ってもらいたいと考えている。またシンポジウムの中心となった相談部門のサポートセンターコンパス北斗のホームページや日常の支援活動で市内の相談支援事業所や地域包括支援センター、ケアマネットしずおかを訪問した際に内容を伝えていきたいと考えている。また第2部、第3部に参加していただいた団体ではそれぞれの活動報告やホームページにおいてこのシンポジウムの内容や自団体の地域共生への取り組みについて広報していただけるものと思っている。今回参加した団体は支援対象がそれぞれ違うのでこのように各団体で成果の公表を行うことでより多くの人たちに地域共生について関心を持ってもらうことができるのではないかと考えている。

■ 今後の展開

地域共生はそう簡単に実現するものではないことはディスカッションでも言われていたがそれでもまずできることからアクションを起こすことが重要である。個人としては毎日の相談や支援を通じて地域での生活を考えることが出てくる。そこから共生に繋げていくことを考えよう。参加してい

ただいた丸子まちづくり協議会の取り組みにも参加し地域のなかにいる知的障害や精神障害のある人との繋がりを作ることでお互いが良く知り合う機会を作っていきたい。また法人としては静岡市役所が考えているまちづくり計画にある懇話会への参加などで地域共生について発言をしていくことができると思う。

普段の活動以外でも地域共生を考える「イベント」を行うこともできると思う。その一つとして考えているのが「リアルボードゲーム」である。あくまでも個人レベルでの考えだが、「リアルボードゲーム」は全国各地で行われているが静岡の街中(例えば鷹匠地区)をボードに見立ててゲームを展開していくのだがチーム構成を障害者、高齢者、地域住民の組み合わせにすること、商店や福祉施設などの参画、ミッションを共生に関することからにするなどの工夫をすることでお互いが地域共生について肌で感じるができるだろうと思う。

このような展開も可能性があると思う。